

いとゆかり

No.173
2014年7月

長崎ゆかりの文学展

県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、「長崎ゆかりの文学展」として、年間4回の企画展と常設展を開催しています。毎年夏の企画展では「原爆文学」をテーマに長崎の文学を紹介しています。



第2回企画展「原爆文学展」開催中

現在、4階郷土資料展示室で「原爆文学展」を開催中です。長崎ゆかりの文学者や被爆の証言者の言葉の力によって長い時間をかけて生み出されてきた「長崎の原爆文学」を紹介しています。

林京子、佐多稻子、福田須磨子、山田かん、竹山広等に関する貴重資料や著書、被爆体験記『雅子斃れず』(石田雅子著)とその関連資料、また原爆に関する文学碑の写真などを展示中です。

『雅子斃れず』東京版の直筆原稿や永井隆直筆原稿(『雅子斃れず』東京版の「序にかえて」原稿)は初公開です。

会期は8月30日(土)までです。この機会にぜひご来館ください。

常設展「シリーズ 長崎文学散歩」も開催中

本県には豊かな文学を育んだそれぞれの土地に、作家の功績を讃えるとともにその作品を後世に継承するために多くの文学碑が建てられています。そのような県内の文学碑や文学作品の舞台の写真と、解説パネルや本館所蔵資料を展示し、長崎ゆかりの文学を「長崎文学散歩」としてシリーズで紹介しています。

第7回目の現在は、蛍塚(吉井勇歌碑)(諫早市)と北原白秋歌碑(長崎市)、田中千禾夫文学碑(長崎市)、松尾あつゆき句碑(長崎市)です。

処女作「おふくろ」が生まれるまでのいきさつやその後の創作活動について記した田中千禾夫の直筆原稿や松尾あつゆきの日記直筆原稿などを展示しています。

企画展と併せてぜひご観覧ください。

ひさし

2階ロビー展「石田壽と長崎」



2階ロビーでは、被爆体験記『雅子斃れず』を綴った石田雅子の父、石田壽のさまざまな地域活動や文化活動を紹介した「石田壽と長崎」を開催しています。長崎地方裁判所長であった石田壽は、長崎在任中、長崎ユネスコ協力会長、長崎国際文化協会長を務めるなど文化活動に尽力しました。GHO/SCAPの検閲により出版が差し止められた『雅子斃れず』が世に出されるまでの経緯や被爆後の長崎に根ざした石田壽のさまざまな活動を、写真や文書、解説パネル等でたどっています。

長崎ゆかりの文学展と併せてぜひご観覧ください。

もくじ

◎ 長崎ゆかりの文学展第2回企画展、常設展、2階ロビー展	P 1	◎ 実習生の声	P 3、P 4
◎ 長崎ゆかりの文学展第1回企画展	P 2	◎ 県内図書館散歩	P 4
◎ 第31回県立長崎図書館講座	P 2	◎ 文部科学省表彰団体の紹介	P 5
◎ 文化講演会	P 2	◎ 長崎図書クロスねっと	P 6
◎ 館長就任あいさつ	P 3	◎ 国立国会図書館デジタル化資料	P 6
		◎ 行事案内	P 6

好評のうちに終了

長崎ゆかりの文学展

第1回企画展「長崎の文学とキリスト教」

本県は、豊かな自然や独特の歴史と文化を有し、多くの文学作品の舞台となっていました。

今回の企画展では、「長崎の文学とキリスト教」というテーマのもと、市川森一「幻日」、森禮子「五島崩れ」、遠藤周作「沈黙」、堀田善衛「海鳴りの底から」、長与善郎「青銅の基督」、芥川龍之介「奉教人の死」などの6作品を中心に、作品の一部抜粋やあらすじをまとめたパネル、各作家の主な作品や直筆資料等を展示し、キリスト教殉教のドラマをとりあげた作品を紹介しました。



「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録推進の動きとの関連性もあってか、多くの来館者にご観覧いただきました。

市川森一や長与善郎の直筆原稿、遠藤周作の直筆原稿と色紙（遠藤周作文学館蔵）などを、じっくりとご覧になる来館者の姿も多数見受けられました。

第31回 県立長崎図書館講座

講演「長崎の文学とキリスト教 —『浦上四番崩れ』をめぐる文学—」を開催しました。

長崎ゆかりの文学展 第1回企画展「長崎の文学とキリスト教」に連動した文学講座を5月25日(日)に開催しました。日本近代文芸研究者で活水学院院長の奥野政元氏を講師にお迎えし、「浦上四番崩れ」をめぐる文学の中から、遠藤周作「女の一生 1部 キクの場合」と大佛次郎「天皇の世紀」について、その作品世界の魅力や長崎の文学とキリスト教の関わりについてお話をいただきました。



講師の奥野政元氏



浦上四番崩れの様々なエピソードから、日本人の精神性や日本における近代の意味にまで及ぶ多彩で示唆に富んだお話に、聴衆は引き込まれていました。

受講者からは、「漠然とした『浦上四番崩れ』がわかりやすく伝わってきました。」「興味深いお話で集中して聞くことができ充実した時間でした。」「熱い講演に感動しました。エピソードやこぼれ話に楽しい時間を過ごすことができました。」等の感想が寄せられ、大変好評でした。

平成26年度長崎県読書グループ連絡協議会文化講演会

6月19日(木)に長崎の教会群を世界遺産にする会事務局長の柿森和年氏を講師にお迎えし、「長崎居留地とキリストン」と題する文化講演会を開催しました。

(共催事業)

長崎市役所御在職中に、旧長崎居留地の町並みが残る東・南山手地区を、国的重要伝統的建造物群保存地区に10年をかけてまとめあげられた御経験に基づいた居留地についてのお話からはじまり、キリストン、特に現在の新上五島町江袋出身で明治時代に隠れキリストンから司祭になった島田喜蔵神父の生涯についてわかりやすく御説明いただき、「2016年長崎の教会群とキリスト教関連遺産が世界遺産に登録され、みなさんと共によろこびを分かちあうことができますように」との言葉で講演を締めくくられました。



講演終了後には会場からの「隠れキリストンと潜伏キリストンの違いは何か」との質問にもお答えいただき、世界遺産登録に向けての気運が高まる中、参加者は理解を深めていました。

県立長崎図書館「新任館長として」

本とのよき出会いを



皆さん、こんにちは。この春、館長に就任いたしました中川幸久と申します。どうぞよろしくお願ひします。

館長 中川 幸久

皆さんには平素より県立長崎図書館をご利用いただき、心より感謝申し上げます。 いうまでもなく読書は、人間の知性を磨き、豊かな感性と情操を育むうえで、大変重要な役割を果たします。 書上練磨と言う言葉が示すとおり、読書は人の成長に欠かせないものであります。

ところで図書館は、「本と人を結ぶ出会いの場」とも言えます。

私は、多数の本が並べてある書架を前にすると、世の中には自分が出会うべき本が無数にあり、そうした本たちがじっと私を待っているのではないかと、しばしば思うのです。

残念ながら閉架図書の中には、人の手に触れられることなく、静かに眠り続けている本も少なくありません。 それゆえ少しでも多くの人たちに、本に親しみ、本を読んでもらえる機会が多かれと願うのです。

県立図書館の第一の使命は、市町立図書館の支援とよく言われます。ご承知のとおり、市町立図書館は、施設・設備等の状況や蔵書の数など、地域によってさまざまです。 私ども図書館に従事する者は、利用者の利便性に不利益が生じないよう努める必要があります。

現在、県域37箇所の市町立図書館および12の大学等の図書館と県立長崎図書館が相互貸借を行い、利用者に等しくサービスが届くよう連携を図っています。 また、離島や交通が不便な地域には、インターネットによる貸し出しを検討しているところです。

さて、県教育委員会では、新しい県立図書館の整備基本計画を進めています。 時代の先端を走る武雄市の図書館に代表されますように、今、日本中の図書館が変わろうとしています。 私は、これから図書館は、時代が変わっても変えてはならぬものと変えるべきものがあろうかと思います。

いわゆる不易と流行です。そのバランスがきわめて重要だと思うのです。

市町立図書館の支援はもちろんですが、これから県立図書館の役目とは何なのか、利用者にどのようなものを提供すべきなのか、しっかり考えていく必要を感じます。

もちろん図書館の不易は、本と人とのいかに結びつけるか、その工夫にあることは言うに及びません。

皆さまが本とのよき出会いができますよう、今後ともお手伝いさせていただければと思います。 ご来館を心よりお待ちしています。

実習生の声をご紹介します。

～ 県立長崎図書館での臨床実習を終えて～

●長崎大学大学院 教育学研究科 楊添

今回は県立長崎図書館で5日間実習しました。特に図書館の資料の管理に関して、たくさん勉強になりました。

実習をする前に、図書館の仕事は本の管理と貸出だけで、簡単だと思っていた。 実際に実習をすると、図書館の仕事はすごく使命感に溢れ、なくてはいけない立派な仕事だと思います。 普通の本はもちろん、新聞や長崎に関する資料もたくさん所蔵していて、長崎の歴史や文化の保存にもたいへん貢献しています。

5日間の中で、特に資料課と奉仕課の実習は心に残ります。 資料課では資料の選定や分類はもちろん、一番感心したのは資料の補修、製本と修復の作業です。 色々な知識が載せられている資料の大切さを一番実感しました。 そして、奉仕課の実習ではスタッフの行いがまさに奉仕の精神の表れだと思い、たいへん感動しました。

5日間の実習は私にとっては忘れ難い体験だと思います。



●長崎大学大学院 教育学研究科 楊 婧鈺

私は今回、県立長崎図書館で臨床実習を行って、とても多くの方にお世話になりました。

図書館には、カウンターで業務を行う方、本を探し、片付ける方、本を修理し、新聞をまとめて整理する方、ほかの図書館との資料の流通を管理する方、イベントを開催するため準備をする方、図書館の運営に関する仕事をする方、様々な仕事をしている方があり、どれも図書館を支えている大切な仕事です。今回の実習では、それぞれの作業を間近でお手伝いさせていただきました。



県立図書館は、表に見えている部分の資料が充実していることはもちろんですが、今回改めてそのすごさを感じたのは、普段見ることができない書庫の中でした。そこには手を触れるのも躊躇してしまうような貴重な古い本、珍しい本、レコードまでたくさんの資料がありました。そして、これらの資料を誰もがいつでも利用できる状態にしておくために、多くの職員の方が建物の中を縦横無尽に駆け回っています。

5日間の実習を通して、図書館の表からは決して見えない部分の仕事を、少しだけ経験できたのは、とても勉強になりました。

シリーズ 県内図書館散歩 ⑯

南島原市口之津図書館
加津佐図書館・深江図書館



南島原市口之津図書館は平成25年10月1日に開館20周年を迎え、記念講演として絵本作家・よしながこうたく氏をお招きました。

毎週土曜日には、友の会や地元の高校生にも協力していただき、おはなし会を行っています。また、毎月第2火曜日には乳幼児向けおはなし会も行っており、お母さん達の交流の場にもなっています。

転勤して来られる方が多い地域なので、慣れない環境での憩いの場になれたらと思い、来館される方とのコミュニケーションを大切にしています。

加津佐図書館は、今年の8月で開館25周年を迎え、南島原市内図書館最年長です。オレンジ色の屋根がトレードマークの、アットホームな図書館です。幅広い年齢層の方々が来館してくださり、中学校体育館に隣接しているため、部活動帰りの生徒たちのオアシスにもなっています。

また、小さい図書館ながらも、おはなし会や工作教室など、色々な催し物を行なっています。毎回多くの子どもたちが参加してくれます。今年は、開館25周年記念行事を開催します。九州をはじめ、海外でも大活躍の『DANパネ団』をお迎えし、パネルシアター公演を行ないます。ぜひ、ご来場下さい。

場所: 加津佐総合福祉センター希望の里 日時: 8月30日14時~



工作教室の様子



深江図書館は平成15年に「深江ふるさと伝承館図書室」として開室、平成23年には「深江図書館」となり、昨年6月に開室から10周年を迎えました。

平成23年度から年に一度「図書館まつり」を開催しています。今年6月に行った第4回図書館まつりでは、音楽と読み語りによる「言葉語りコンサート」やワークショップ、スタンプラリー等を行い、多くの方にご来場いただきました。

これからも本と人の出会いの場として、よりたくさんの地域の皆さんに足を運んで頂けるような明るい図書館づくりに努めています。

文部科学省表彰団体の紹介

H26

● 小値賀町立図書館

小値賀町立図書館は、「文化・情報の発信拠点として開かれた図書館」を目指して平成7年4月1日に開館しました。その後、平成21年4月に旧幼稚園跡を再利用する形で、“ふれあいプラザ”として町の中心地から町の文教地区へ移転し、再開館して6年目を迎えました。

小さい頃から本に接することで読書の楽しさを知ってもらいたいとの思いから、平成11年に、育児サークル「ひまわりキッズ」の皆さんの協力により図書館ボランティアグループ「おはなしの会 たんぽぽ」が誕生し、2ヶ月に1回図書館にておはなし会を開催してもらっています。「たんぽぽ」の方々には、学校等への読み聞かせ活動、図書館主催事業のお菓子作り教室、工作教室等、町内の子ども達への読書普及に協力してもらっています。また、平成20年から、県立高校へ派遣されているALTの先生の協力により「英語のおはなし会」を毎月1回開催しています。「何を言っているのか分からぬ」「日本語で話して」と言われたりもしますが、英単語を学んだり歌を歌ったり、「たんぽぽさんとの合同おはなし会」を開催する等、どうすれば子ども達に楽しんでもらえるか試行錯誤しながら活動を行っています。その他にも小中学校・幼稚園等へのクラス単位での団体貸出、学校図書館との連携事業等、これからも継続して教育機関と連携を図ることで、本との出会いを増やしていきたいと思っています。



幼児期から小学生、中高生、大人へと段階を踏みながら、本が身近にある生活を図書館としてどう提供していくかとの課題はありますが、これからも図書館サービスを通じて、本との出会い、親しみ、読書の楽しさの普及に努めていきたいと思います。

● ボランティアサークル読み聞かせの会「紙風船」



この度、文部科学大臣賞を受賞しました事大変有難く、今後も読書活動により一層の力を入れ取り組んで参ります。又「紙風船」に活動の場を与えて頂いた多くの皆様方の暖かいご支援とご協力に深く感謝を致します。

「紙風船」は平成13年7月に結成しました。中央公民館を拠点として月1回、土曜日に幼児と学童が親子で参加できる読み聞かせの会を始めました。その後、生月小学校より朝・昼読みの依頼を受け、さらに中学校、保育所、児童館、各老健施設、又各種団体からの声がかりも多くなり、さらには、平戸市内全域から続いて、市外は佐世保市、長崎市その他各地での活動の場が大きく広がりました。又公民館主催のイベント、七夕まつりとクリスマス会は“親と子の集い”として「紙風船」の読み聞かせで絵本文化の世界を大きく盛り上げています。小・中学生のボランティアも15名以上喜んで参加してくれます。参加者は親子で毎回100人を越え、親は我が子をしっかりと見つめ、又親同志が仲良くなり、子育ての楽しさ、喜びを共に分かち合ってもらう事を願っています。活動内容としては、まずは良い絵本を選んで絵本の読み聞かせが主ですが、紙芝居、ペーパーサート、エプロンシアター、ブックトーク、素話、ブラックシアター等も入れます。そして手遊び等も入れて、聞き手と読み手とのキャッチボールをうまくとり乍ら、作者の思いを正しく伝えて行く様に心掛けています。

“絵本から人間としての大切な事を学ぶ事が出来る”と云うこの事の強い思いを11名のスタッフが常に協調性を持つて笑顔と優しさで一人でも多くの人に届けてあげたいとの想いで、これからもより一層活動に励んで参りたいと思います。

長崎図書クロスねっと ~あなたが求めるその1冊を届けたい~

「書架を探しても
見つからない・・・。」

そんなん時は→

長崎図書クロスねっと
県内公共・大学図書館間の相互貸借ネットワーク



最寄りの図書館に探している本がないときは？

最寄りの図書館に探している本がない場合でも、インターネット上で県内の図書館等が所蔵する本を検索し、最寄りの図書館で借りることができます。

皆様にお探しの本を提供するため、県内の県・市町図書館や大学図書館（蔵書総数約863万冊）が、協力体制を整えています。詳しくは、最寄りの図書館または、県立長崎図書館へお尋ねください。

国立国会図書館のデジタル化資料が本館3階、4階の情報検索用パソコンで閲覧できます。

（閲覧できる資料）

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、インターネット公開がされておらず、絶版等の理由で入手が困難な資料（約131万点：平成26年1月時点）が対象です。ぜひご利用ください。

図 書	昭和43年までに受け入れた図書約50万点
古 典 種	明治期以降の貴重書等約2万点
雑 誌	平成12年までに発行された雑誌 (商業出版されていないもの) 約67万点
博士論文	平成3~12年度に送付を受けた論文 (商業出版されていないもの) 約12万点

催し物のご案内

平成26年度「長崎ゆかりの文学展」

(第3回企画展)

「長崎の俳人展」

(平成26年9月17日～平成26年12月21日)

場所：県立長崎図書館 4階郷土資料展示室

時間：9:30～17:00（ただし休館日を除く）

第33回（平成26年度第3回）

県立長崎図書館講座

「戦国武将の教養獲得と読書－人格をどう磨いたか－」

講師：小和田 哲男 氏（静岡大学名誉教授）

日時：平成26年11月9日（日）13:30～15:30

場所：県立長崎図書館 2階 講堂